

新唐津市民会館（仮称）改築設計業務

基本設計【概要版】

2023年10月

唐津市

1. 計画コンセプト	………	01
2. 施設計画	………	02～04
3. 展示場計画	………	05
4. ホール計画	………	06
5. 景観・環境・設備計画	………	07

新たな唐津の歴史・文化・まちの拠点をつくります



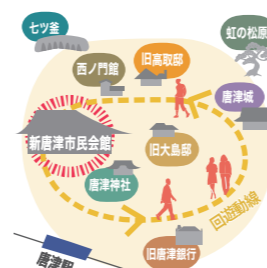
1 屋根でつなぐ新しい街のシンボル

- ・市民会館（ホール）と曳山展示場を一体的な屋根でつなぎ、文化+観光の拠点とします。
- ・唐津城、唐津神社など唐津市の歴史的建造物の屋根に呼応する屋根のデザインにより、まちの景観とのネットワーク化を図ります。



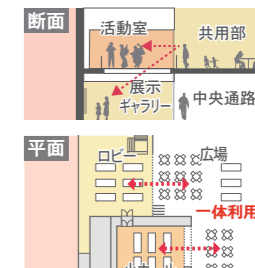
2 まちをつなぎ、情報発信する観光拠点

- ・「文化+観光」の発信創造拠点をつくることで、人の流れが生まれ回遊動線が活性化し、市内観光施設との連携を強化します。
- ・展示ギャラリーでは、市内文化・観光施設との連携、情報発信を行い、“まちはミュージアム”を実現します。



3 日常も賑わう文化施設

- ・誰もが気軽に立ち寄れる空間として、イベントや祭りのない日常にもにぎわいを創出します。
- ・広場と連携できるロビーや、小ホール、無料開放できるホワイエ等、イベント時にも利便性を確保します。



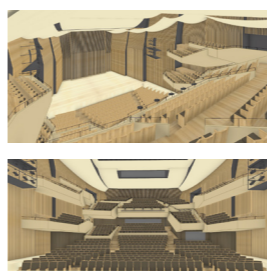
4 魅せる曳山展示場をつくります

- ・コ型の平面形状とすることで、14台の曳山を一望可能とし、曳山に囲まれた迫力ある展示空間とします。
- ・臨場感のある映像や、参加型の映像体験で、祭りに参加しているような演出を行ないます。



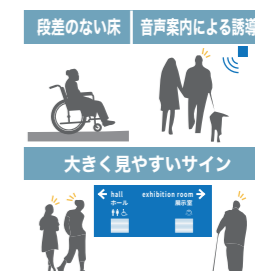
5 臨場感あふれるホールを実現

- ・ブドウ畑のように客席が段状に分割され、客席が舞台を取り囲むことで一体感を感じるワインヤード形式を意識した客席ブロック配置の多目的ホールとします。
- ・豊かな音響性能を持つホールを実現します。



6 誰でも使いやすいユニバーサルデザイン

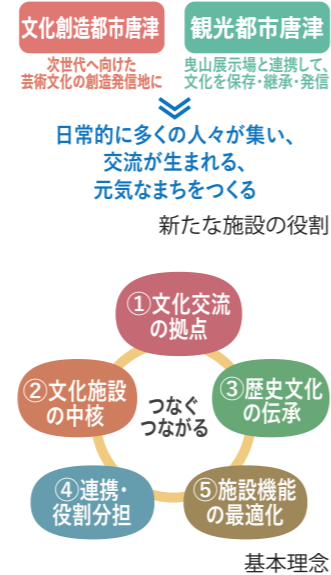
- ・建物全体のバリアフリー化を行うだけでなく、音声案内や分かりやすい誘導サインを設置し、誰もが使いやすいユニバーサルデザインを目指します。
- ・障がいの有無、年齢、性別、文化、国籍、言語に関わらず多様な人々が利用しやすいようサインを使用し、多言語標記を行います。



新しい街のシンボルとして、市民会館と曳山展示場を一体的に整備します

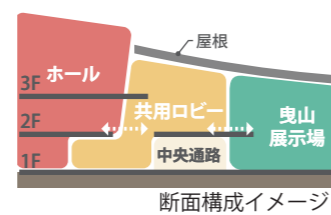
■ 新唐津市民会館（仮称）の役割

- 文化芸術により市民に安らぎや活力を与える場として、優れた文化芸術に触れることによって、市民による自主的な文化芸術活動を促進し、市民の創造性や表現力を生み出すことを目指します。
- 文化芸術活動が盛んになると同時に文化交流、地域間交流、世代間交流など様々な交流が生まれ、福祉の増進、まちの賑わいや活性化につなげていくことを目指します。
- 唐津に誇りを持ち続けられるように、将来を担う人材や団体の育成に力を注ぎます。
また、そこから生み出される文化芸術が持つ力と唐津の伝統文化とが連動して、広く唐津の魅力を発信することができる文化交流の拠点を目指します。



■ にぎわいと機能連携に配慮した施設計画

- 曳山展示場と市民会館は中央通路上の2階レベルで接続し、共用ロビーや吹き抜けを介して一体的につながる空間とします。
- 市民会館と曳山展示場の出入口を一緒にすることで一体的な施設管理を行います。
- 市民会館側に展示スペースや売店を設けることで、曳山展示場を訪れた人や、来館者にも情報の発信を行います。
- 共用部にはテーブルやイスを各所に配置し、人々の交流の場、憩いの場として、多くの人々が集うことのできる施設とします。



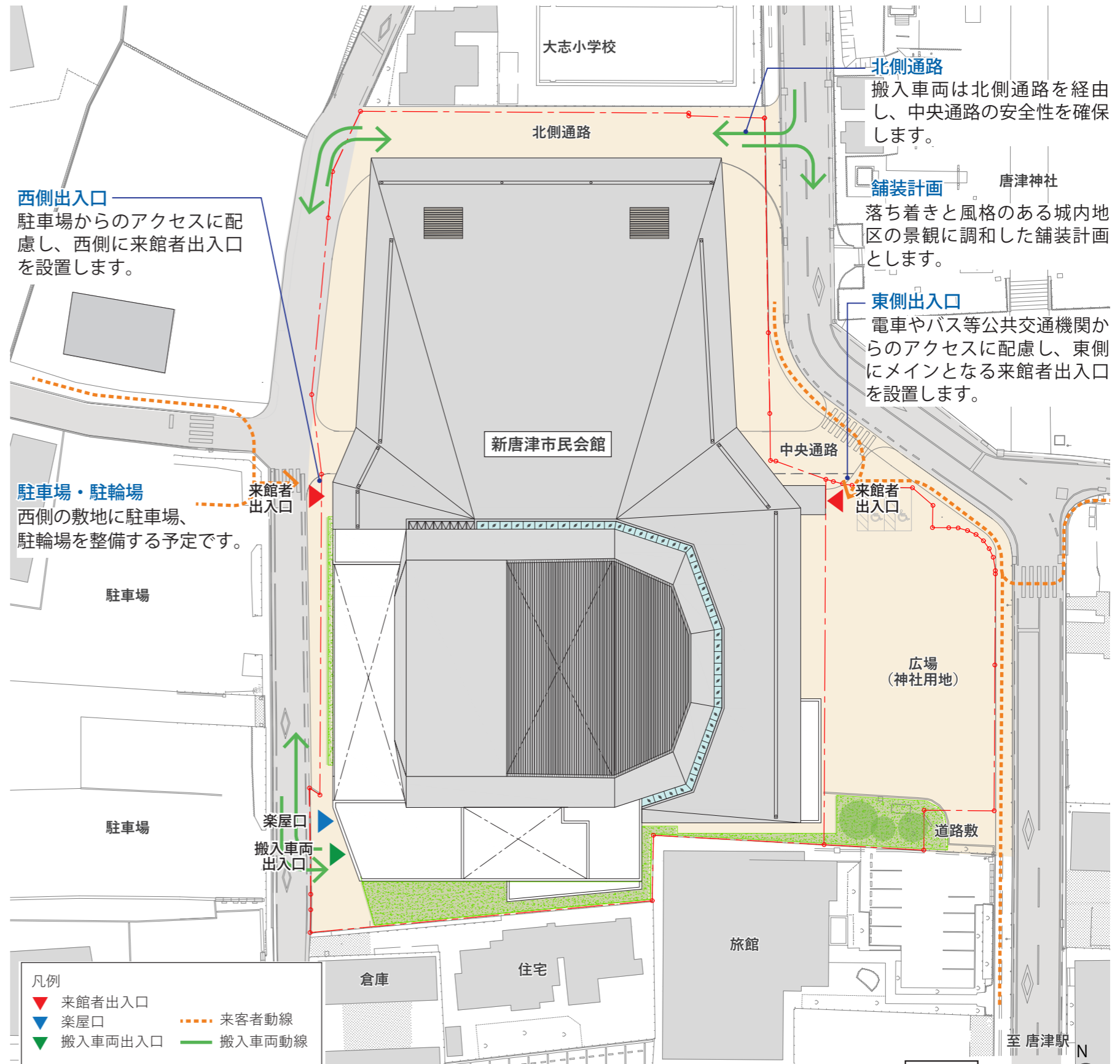
■ 敷地概要

所在地：佐賀県唐津市 西城内 6-33
敷地面積：約 7,120㎡
用途地域：第一種住居地域
指定容積率：200%
指定建ぺい率：60%
防火地域：準防火地域

■ 計画概要

主要用途：公会堂、展示場
消防法防火対象物：(16) 項イ 複合用途防火対象物 [(1) 項 (ロ) 公会堂・(8) 項 展示場]
構造：RC造（一部、SRC造）、S造
建築面積：約 4,860㎡
延床面積：約 7,280㎡
建物高さ：約 25m
階数：地下1階、地上4階（地下1階、地上4階は設備フロア）
ホール客席：829席

■ 配置計画



配置図 S=1/600



①共用部イメージ

展示ギャラリー

デジタルサイネージ等を用い、市内文化施設の開館情報・イベント・観光情報を発信していきます。



デジタルサイネージ 参考事例

障がい者用駐車場

雨に濡れずに直接施設内にアクセス可能な障がい者用駐車場を設置します。

楽屋関係諸室

楽屋諸室を舞台後方に集約し、演者と利用者動線を明確に分離することで、利便性の向上を図ります。また、通風や自然採光を取り入れることも可能です。

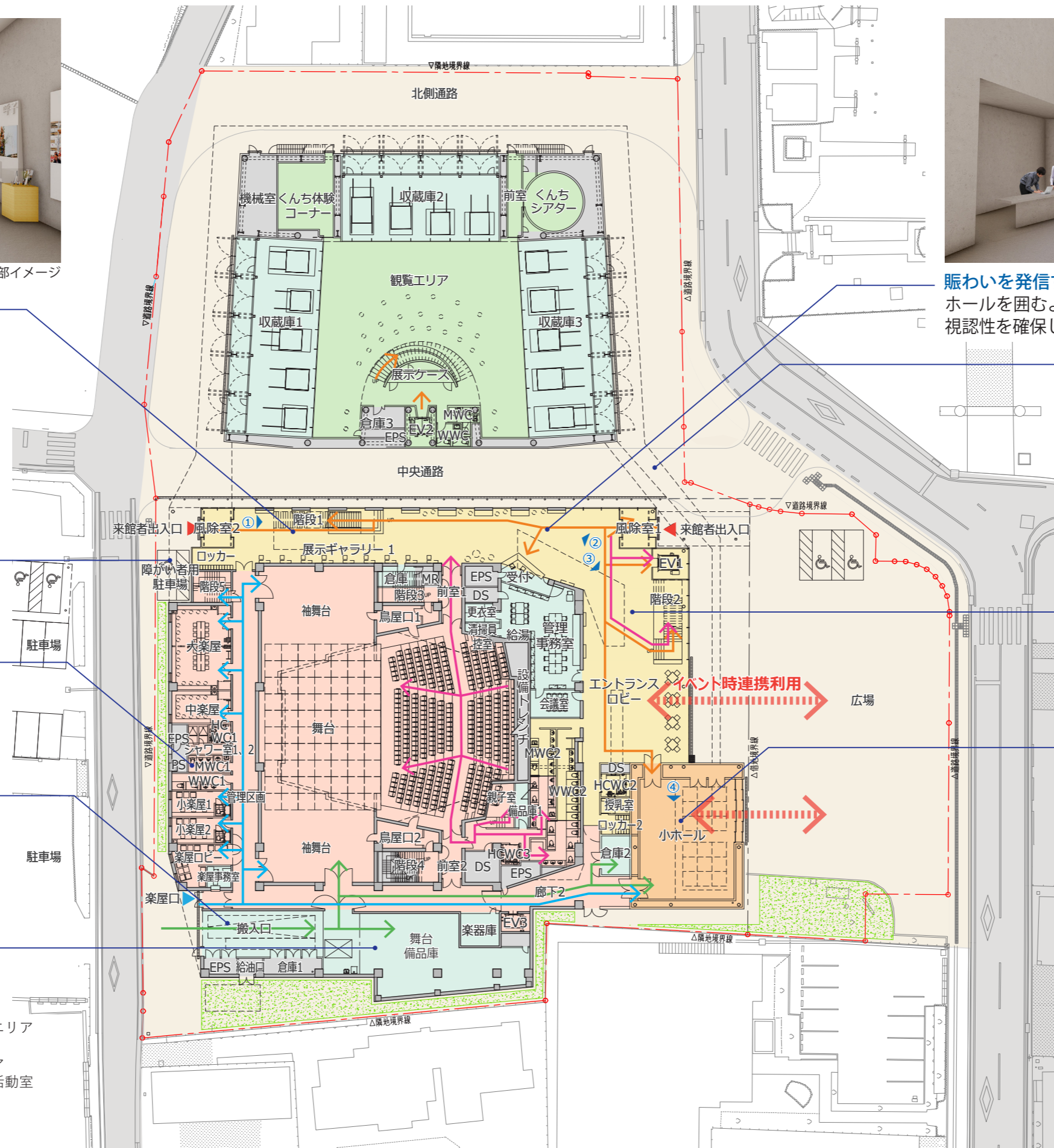
搬入口

舞台備品庫、袖舞台と隣接し、雨天時でも使いやすく、スムーズな搬入が可能です。
(※ 11tトラック対応可能)

舞台備品庫

搬入口、舞台に近く搬出入がしやすい下手側に配置します。

- 凡例
- (オレンジ) : 施設利用者動線
 - (赤) : ホール利用者動線
 - (青) : 出演者動線
 - (緑) : 搬入動線
 - (黄緑) : 展示エリア
 - (黄) : 共用部エリア
 - (茶) : 小ホール・活動室
 - (灰) : 管理諸室
 - (白) : 機械室等
 - (赤) : ホール関連エリア



②共用部イメージ

賑わいを発信する共用部

ホールを囲むようにL字に共用部を設け、開放的な空間と視認性を確保し、敷地東西からのアクセスに配慮します。

中央通路

既存と同位置に中央通路を整備します。



③共用部イメージ

エントランスロビー

テーブルとイスを配置し、日常的に市民が集う空間とします。また、オープンにできる開口部を設け、広場との連携利用を促進します。

小ホール

広場と一体利用が可能な計画とし、演奏会や講演会等のイベント利用、楽屋としても利用可能です。また、遮音構造とすることで、ホールとの同時利用が可能な計画とします。



④小ホールイメージ

1階平面図

S=1/500



施設計画 3

- 凡例
- : 施設利用者動線
 - : ホール利用者動線
 - : 出演者動線
 - ⋯ : ホワイエ有料区画
 - : ホール関連エリア
 - : 展示エリア
 - : 共用部エリア
 - : 小ホール・活動室
 - : 管理諸室
 - : 機械室等

2階観覧エリア

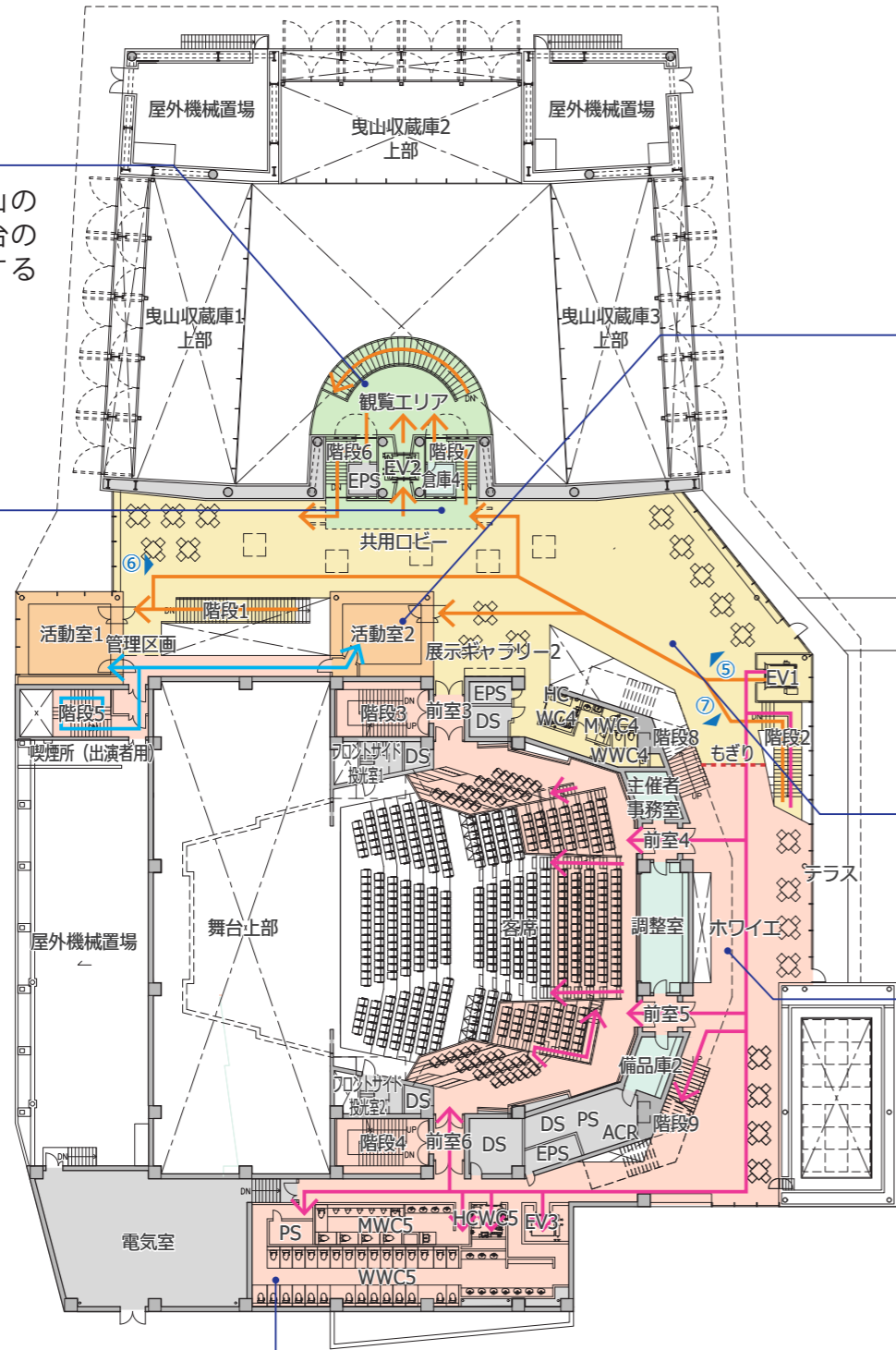
観覧エリアでは曳山の目線の高さから14台の勇壮な曳山を一望することができます。

展示場入口

曳山展示場へは2階から入場します。

ホール用トイレ

休憩時の混雑を緩和するため、男女トイレともに器具数を十分に確保します。



2階平面図



⑤ 2F 共用ロビーイメージ



⑥ 2F 共用ロビーイメージ

活動室1,2

共用ロビーから部屋の様子が見えることで、市民の交流と日常的な文化活動等を通して、賑わいを生み出します。



活動室イメージ

共用ロビー

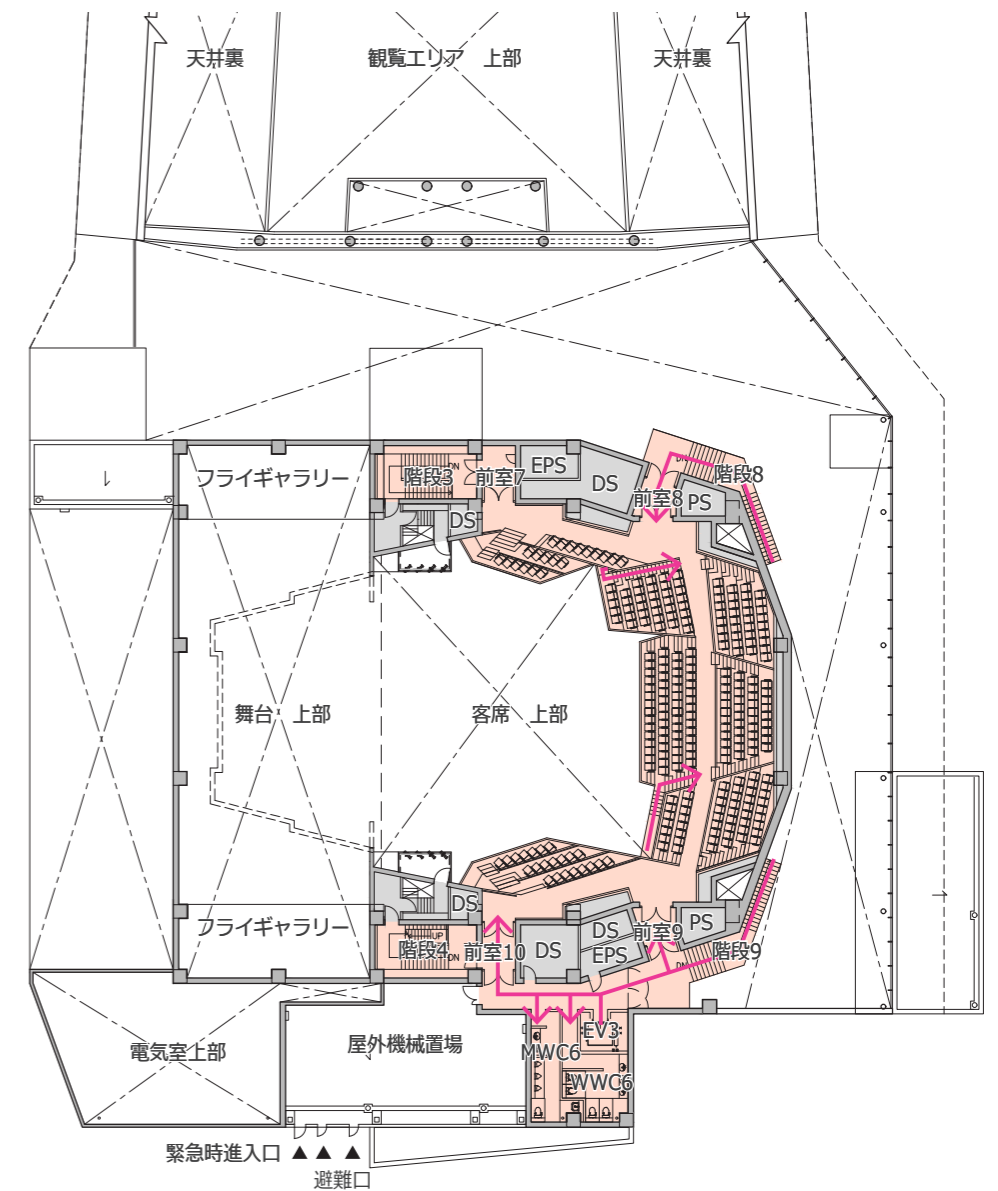
吹き抜けのある開放的な共用ロビーは、市民の憩いの場として、展示品の発表の場としても利用できます。

ホワイエ

ホワイエは、広場に面した眺望の良い空間とします。また、ホールが使用されていないときは、共用部として利用可能です。



⑦ 2F ホワイエイメージ



3階平面図

S=1/500



魅せる曳山展示場をつくります

■ 迫力ある曳山展示

- コ型の平面形状とすることで、14台の曳山を一望でき、曳山に囲まれた迫力ある展示空間とします。
- 2階に半円形の観覧エリアを設けることで、曳山と同じ目線で曳山を観覧することができます。

■ 2種類の体験展示

- 臨場感のある映像や、参加型の映像体験で、祭りに参加しているような演出を行います。



臨場感のある映像



参加型の映像体験

■ 曳山に適した保存環境

- 展示場出入口には前室を確保することで、外光の流入を最小限とします。
- 曳山収蔵庫内は温度を均一に保ちつつ、気流を抑えて結露を防止し、曳山の劣化を防ぎます。
- 曳山収蔵庫の扉を二重扉とすることで、外部の温湿度の影響を受け難い環境を保ちます。



西面



北面



東面

2F 観覧エリアからのイメージ



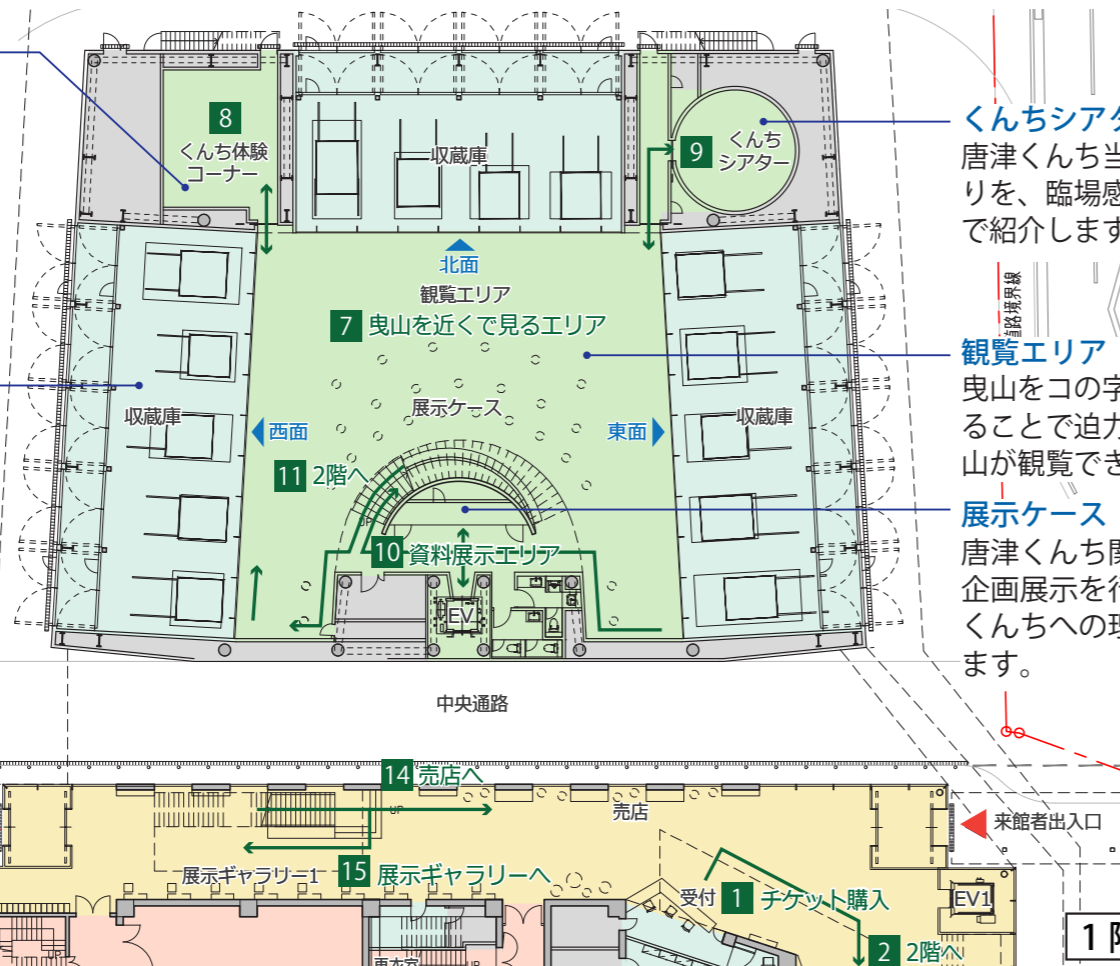
観覧エリアイメージ

くunchi体験

お囃子に合わせて、太鼓やしめ太鼓を打つことができ、来館者の画像と映像を合成するなど、唐津くunchiを疑似体験できるエリアとします。

曳山収蔵庫

二重扉とすることで、収蔵庫内の温湿度を一定に保ち、適切な曳山の保存環境とします。



くunchiシアター

唐津くunchi当日の盛況ぶりを、臨場感のある映像で紹介します。

観覧エリア

曳山をコの字に配置することで迫力のある曳山が観覧できます。

展示ケース

唐津くunchi関連資料の企画展示を行い、唐津くunchiへの理解を深めます。

2F 観覧エリア

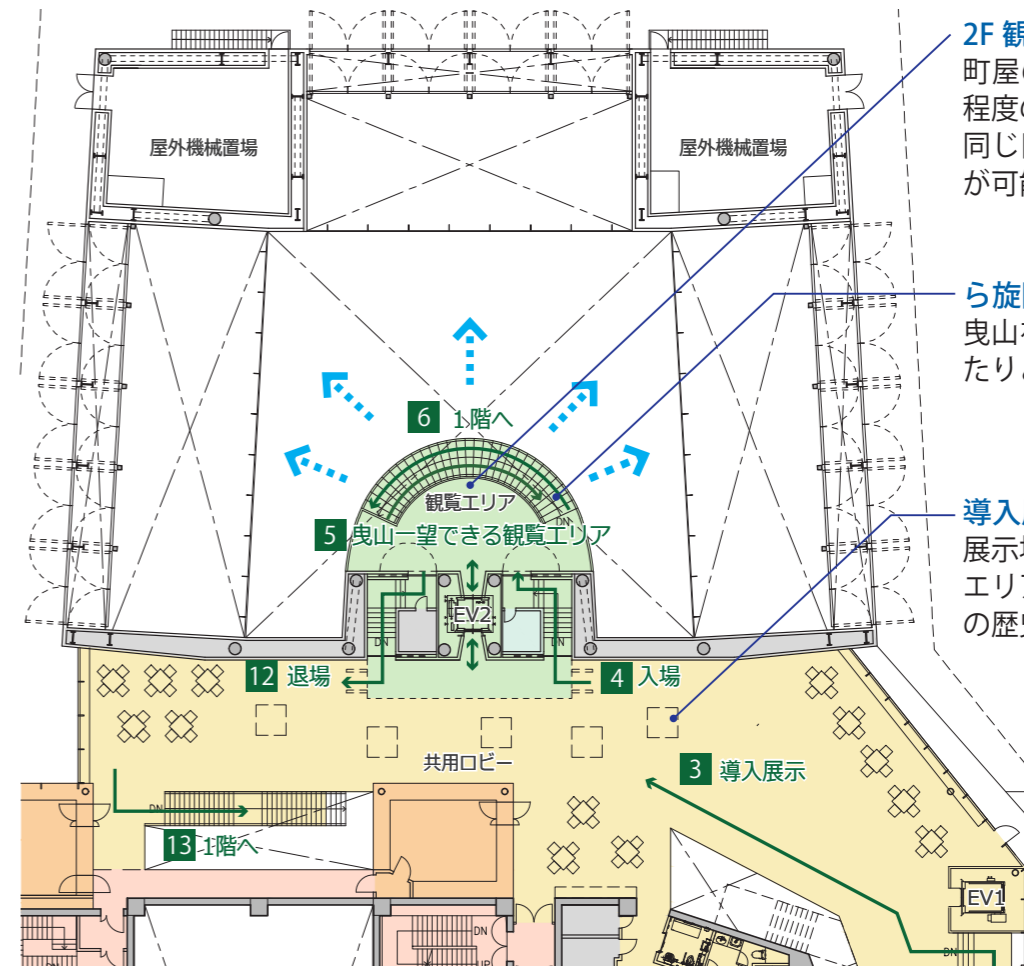
町屋の2階と同等の3m程度の高さとし、曳山と同じ目線で迫力ある観覧が可能です。

らせん階段

曳山を観覧しながらゆったりと昇降できます。

導入展示

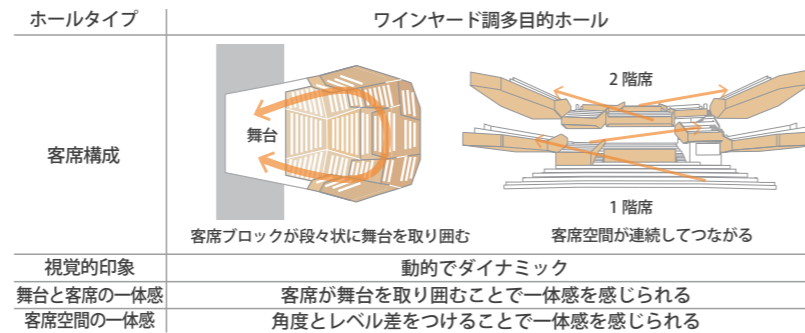
展示場入場前の無料展示エリアです。唐津くunchiの歴史等を展示します。



臨場感あふれるホールを実現します

■ 臨場感のあるワインヤード調客席ブロック配置の多目的ホール

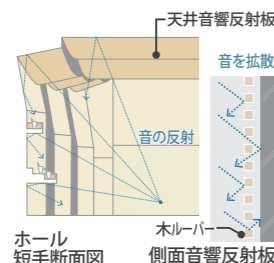
- ・ワインヤード形式とは、ブドウ畑のように客席がブロックに分割され、舞台が客席を取り囲み一体化するダイナミックなホールです。
- ・多様な演目や規模に対応できる多目的ホールであり、ワインヤード形式を意識した段々状の客席が1階席と2階席を緩やかにつなぐ臨場感あふれるホールとします。



舞台より

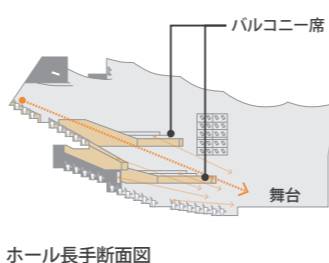
■ 木に包まれた、豊かな音響性能を実現するホール

- ・ホルバーを配置した壁面と円弧状の天井音響反射板により、どの客席でも豊かな音を感じることのできる計画とします。

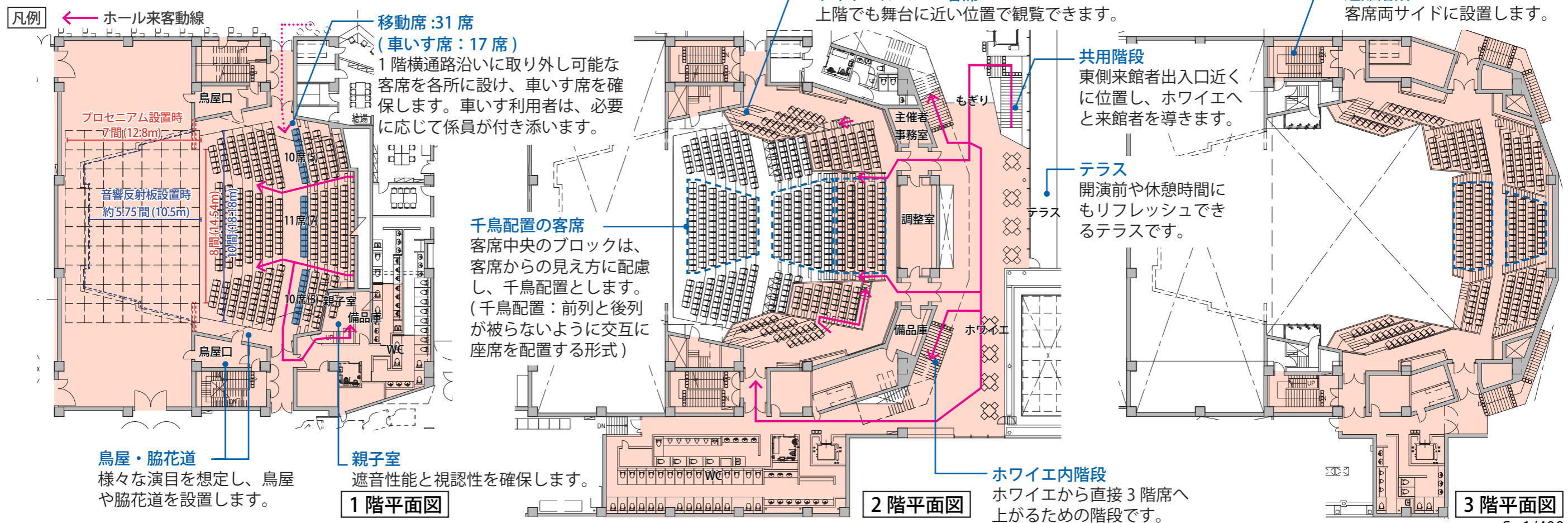


■ 舞台の視認性がよく、どの席からも楽しめるホール

- ・舞台から客席後列まで、視認性のよい立体的な客席空間を実現します。
- ・ワインヤード形式の客席形状により、客席によって見え方が異なることで、何度訪れても楽しむことができる客席配置とします。



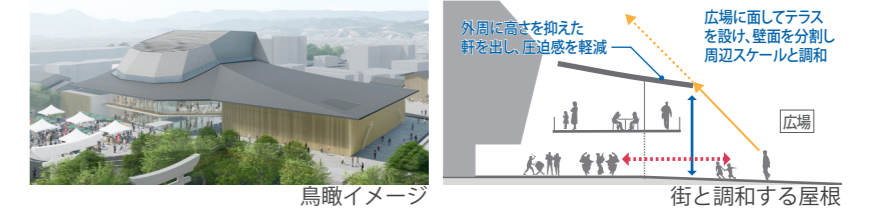
客席数:829席[1階354席(うち親子室4席)/2階205席/3階270席]





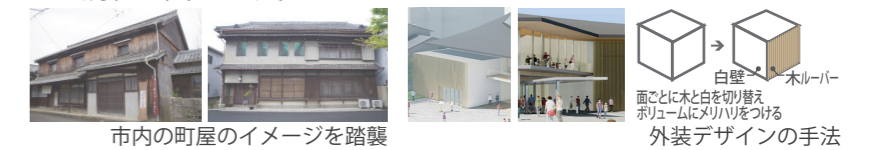
■ 街と調和する施設を一体化する屋根

- ・市民会館と曳山展示場を大屋根でつなぎ、落ち着いた色彩とすることで、街並みとの調和を図ります。
- ・外周に高さを抑えて軒を出すことで、圧迫感を低減しながら、周辺環境と調和させます。
- ・屋根の軒先を薄くすることで軽やかな印象の屋根とします。



■ 唐津の街並みを外壁に再現

- ・漆喰の壁、杉板貼り等の町屋の外観を踏襲し、色数を抑えた白壁と木壁で外壁を構成します。
- ・建物の壁面を白壁と木壁で分節することで、周辺のスケールとの調和を図ります。



■ 環境・設備計画

脱炭素社会の実現に向けて、効率的な空調システムである居住域空調の採用や、CO2 濃度に応じた外気量制御システムを導入し、自然採光による照明エネルギーの削減を行います。

